

## 平成29年度 学校経営目標と学校評価の推進

本校は「開拓者の精神」を建学の精神とし、「整々たる校風」のもと、知・徳・体のバランスのとれた全人教育の視点に立ち、心豊かに逞しく生きる人間教育を志向した「創成の教育」を推進してきた。創立から半世紀が過ぎ、「進化する創成高校」を「SOSEIシステム2.0」として始動させ、全教職員が「学校経営方針」のもと、学び続ける教師集団として「創成の教育」の更なる向上に努める。

1 学校運営				
校長の経営方針	分掌・センター等の関連項目・主な取組	中間総括（10月期）	年度末総括	担当分掌
<p>①校内の組織力を生かす。学年・分掌・教科等の各組織において緊密な連携のもとに迅速に情報を共有し機能的且つ効果的な教育活動を推進する。</p> <p>②「教育構想企画室」においては学校経営方針、及び重点事項、学校評価に関する事項、今後の展望について未来志向に立った課題を検討する。</p> <p>③教育環境を整える。ICT（情報通信技術）環境と機器の整備を計画的に行い、実施に当たっては効率化と情報セキュリティの強化を図る。</p> <p>④危機管理対応については本校のマニュアルを基本に、迅速に関係機関と連携し、適切に対応する。</p> <p>⑤国際理解教育の推進。グローバル化に伴い、姉妹校との交換留学、海外研修等、国際交流を推進し、異文化理解と自国文化の再認識を図る。</p>	<p>①総務部の諸行事や所轄業務の遂行に当たり、各組織と連絡・調整を図り、円滑に企画運営する。</p> <p>②校長の諮問機関として、本校の将来構想を含め、諸課題について検討する。</p> <p>③ICT委員会を中心に、情報機器の環境整備に努め、生徒及び教職員の活用環境の向上に努める。</p> <p>④多様化・深刻化する危機に備え、適切な対応のため、危機管理の意識を全教職員が共有する。</p> <p>⑤交換留学や語学研修、及び報告会等の諸行事を通して、国際理解教育の推進を図る。</p>	<p>①所轄業務はほぼ目標到達に向けて取り組めた。芸術教室についての今後の検討が必要。</p> <p>②年度当初に「総合教育」等について検討をしたが、今年度の実施内容を見守ることとなった。</p> <p>③教員用タブレット型PCを15台導入した。全職員配布に向けて、更なる進展を期待したい。</p> <p>④昨年度、「体罰」と「いじめ」の委員会を加え、新たな危機管理マニュアルを作成したので、組織的に対応が可能となった。</p> <p>⑤各種行事に取り組む中で外国語運用能力の向上に努めている。またその活動の中で異国文化に触れる機会も増えてきている。</p>	<p>①所轄業務は、ほぼ取り組めた。修学旅行の新しい取り組みに着手。</p> <p>②「総合教育」等も含めて、生徒が本校で学ぶことの喜び感ずることができる取り組みが求められる。今年度、総合センターを設置して(ア)SGE研修の実施、(イ)NIEの活用、(ウ)プロジェクト・レポートの活用等を実施し、今後は1年から段階的に実施予定。</p> <p>③次年度のSAG新入生タブレット導入に向けさらなる準備が必要である。</p> <p>④今後も文科省からの調査が継続的に実施されるため、担当の役割分担をする必要がある。</p> <p>⑤次年度は各事業、諸行事を充実させ、更に国際交流・異文化理解を推進させたい。</p>	<p>総務部</p> <p>企画室</p> <p>情報システム</p> <p>教頭</p> <p>国際教育</p>
2 学習指導・教育課程				
<p>①新学習指導要領に基づき本校の教育方針に則った教育課程を編成する。</p> <p>②各教科は、組織的に基礎学力の定着と発展的な学習の指導法を探索し、学力向上に繋げる。</p> <p>③教師は生徒個々の実態を把握し、能力・適性に応じた授業実践に努め、授業管理を徹底する。</p> <p>④生徒の自立的な学習意欲を促し、主体的な「学び」へとつなぐ学習方法を工夫し、学力向上を図る。(アクティブラーニング・マネジメントノートの活用)</p> <p>⑤授業の短縮やカットは最小限に止め、授業時数の確保に努める。</p>	<p>①生徒の能力・適性・進路を把握するとともに、社会の変化等に対応できる教育課程の編成に努める。</p> <p>②生徒が基礎学力を定着させ、自主的に学習する態度を育成するとともに、発展的な学習の指導法を探索させる。</p> <p>③生徒の実態を把握するとともに、生徒のやる気を起こさせる授業態勢づくりに努め、教員の実践的な指導力の向上を目指す。</p> <p>④生徒に興味・関心を抱かせる授業内容を工夫改善し、生徒の主体的・自立的な学力向上を図る。</p> <p>⑤学校行事の精選を図り、授業時数の確保に努める。</p>	<p>①新コース制度2年目。平成29年度入学生教育課程を軸に、平成30年度教育課程を編成した。</p> <p>②1学年総合コースで国数英の学び直しを実施した。次年度は教育課程上にも「学び直し」を設置する予定。次年度につながる取り組みとしたい。</p> <p>③④授業が従来のスクール型講義だけでなく、グループ学習やIT機器を使った学習を推進している。</p> <p>⑤特定の曜日・時間に行事が重なり偏った授業展開となってしまった。</p>	<p>①新学習指導要領を踏まえ平成31年度教育課程を急ピッチで作成する必要がある。</p> <p>②基礎学力の定着に向けては、次年度も継続して取り組む必要がある。</p> <p>③新学習指導要領が示す「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」を整理し、生徒一人ひとりが主体的に学べる授業づくりを推進する。</p> <p>④⑤各分掌と連携し、平成30年度に向け行事を検討する。</p>	<p>教務部</p> <p>教務部</p> <p>教務部</p> <p>教務部</p> <p>教務部</p>

3 進路指導				
①生徒の進路目標を早期に設定させ、3カ年を見通した系統的な指導を行い、進路意識を高め、個々の生徒の進路実現を図る。	①3年間を見通した進路指導を系統的に行い、生徒の多様な目標の実現を支援する。	①ブースガイダンスや特進講話、出前授業等で進路に関する意識付けを行った。今後は個別に大学の説明会等を実施するなど、さらなる進路支援につなげたい。	①新入試制度対応の新1年生に対応した新しい進路シラバスを策定する。ブースガイダンスや進路各種行事の改善・見直しを図る。	進路指導
②生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、ワンランク上を目指す進路指導に努める。	②生徒の可能性を最大限に伸ばし、ワンランク上を目指すため、学年、教科、分掌との連携を密にして、木目の細かな進路指導を推進する。	②進路サポートやスタディサポート・模試の効果的な活用を進めたい。特に大学共通テストへの対応強化が課題である。	②模試の内容が新入試制度に対応したものに変わるため、進路だけではなく教科レベルでの対応が必要となる。	進路指導
③STI/SAGコースの進路マネジメントを有効に活用し、国公立大学・難関私立大学への現役合格を達成するよう進学指導を推進する。	③STI/SAGのコースの特性を踏まえて国公立大学・難関私立大学への合格を目指した、模試・講習の企画・運営・分析などを綿密に行い、生徒の進路指導を推進する。	③SUT、8講の設定などに今後改善していかなくてはいけない部分がある。アドバンス特進の方向性についての全般的な議論が必要。	③次年度へ向けてアドバンス特進の方向性について早急に結論を出す必要がある。	特進選抜
④生徒の希望進路に応じて検定などの資格を習得させ、個別指導を丁寧に行う。	④希望の進路に応じて、丁寧な個別指導で検定等の資格を取得させる。	④教科と連携し、さらなる資格取得に努める。特に英語四技能化に関する資格は今後の重要課題。		
4 生活指導				
①生徒の規範意識を高め、規律正しい生活習慣の定着を図る。身だしなみや挨拶・時間の管理・集団生活におけるルールやマナーなど、全教職員で一致した指導に当たる。	①服装や挨拶、集団生活におけるルールやマナー等を守らせ、規律正しい生活習慣を、教職員一丸となって指導を行う。	①年度当初より服装等を整えさせるだけではなくその意味を生徒に理解させ納得したうえで行動を律することのできるよう指導をお願いしているところであるがまだ十分理解できていない生徒もいるのが現状である。更に一丸となって取り組んでいきたい。	①遅刻指導やみだしなみ指導では根気強く生徒に語りかけていくことで一人一人の成長が見られた。生徒が納得したうえで成長を促す言葉がけを今後も心がけていきたい。	生徒指導
②自他の生命を尊重し思いやりの心を育み、いじめや体罰のない学校を推進する。	②「命の尊さ」をしっかり認識させ、相手を思いやる心を育み、体罰やいじめのない、楽しく、充実した学校生活を推進する。	②いじめ行為に発展しかねないトラブルが各クラス・学年で起こっている。軽微なうちから細かく指導を重ねている状態である。	②今年度はいじめ事案として生徒指導部が扱う事故はなかった。継続して注意深く人間関係を観察していきたい。	生徒指導
③ボランティア活動を積極的に奨励する。	③奉仕の精神を育み、積極的にボランティア活動に参加する姿勢を養う。	③各部活動・委員会での活動を継続している。折を見て公德心を育てていきたい。	③部活動生徒の奉仕活動や各種行事での生徒の活躍をさらに促進していきたい。	生徒指導
④生徒に寄り添う指導、向き合う指導を通して、自律的な生活態度を育成し、不祥事故を未然に防止する。言葉の暴力・威嚇的な指導は避ける。	④交通事故や自転車事故等の不祥事故防止を行うと共に、教育者としての言葉遣いや教姿勢を深める研修を行う。	④話して納得させる指導が少しずつ定着してきている実感がある。生徒に理解され保護者からも協力を得られる指導を心がけていきたい。	④開発的な生徒指導を念頭に置き指導上の大きなトラブルはなかった。継続して指導していきたい。	生徒指導
5 特別活動・部活動				
①ホームルーム活動や学校行事、生徒会活動や委員会活動に生徒を積極的に参加させることで、学校生活の充実と活性化を図る。	①生徒会行事を中心に、生徒会や委員会等の活動の活性化を図る。	①学校祭等の各種行事を通じて委員会活動を活性化することに努めている。	①例年通り実施し所期の目標を達成した。更に活性化させていきたい。	生徒指導
②部活動(含 同好会)を奨励し、部活動への加入率を高める。	②学習と部活動の両立を目指すとともに、活発な部活動を推進する。	②SAGコースの設立により部活動に参加しやすくなっている。	②各部とも活発な活動をしている。大会成績につなげていけるよう配慮していきたい。	生徒指導
③強化指定部は、特に学校を代表する部としての自負心を持たせ、部員はその自覚のもとに全道、全国大会への進出を目指す。	③強化指定部は、確実に実力を付け、全道・全国で活躍できる選手の育成に努める。	③野球の秋季全道大会に伴った全校応援をはじめとして各部とも積極的に取り組んでいる。	③各部とも日々熱心に練習している様子が見られる。大会成績につなげられるように配慮したい。	生徒指導
④「朝の10分間読書」を生涯教育の一環として位置付け読書活動を推進する。	④読書指導を推進し、図書館の利用拡大と読書力を高めるとともに、学習活動の推進に努める。	④クラス(教師)によって取り組みに温度差がある。後期、アンケートを実施し、教師の意識を把握したい。	④アンケート結果(回答数30名)によると、朝読の意義を感じている教師は73%であるが、朝読中に読書以外のことをさせている教師は14%いる。90%は朝読を続けた方がいいという意見なので、今後も朝読の意義の確認をしていきたい。	図書部

6 保健・安全指導				
①学校保健計画に基づき、保健管理と保健教育を適宜指導する。	①保健教育と保健管理の諸活動を通して生徒の健康の保持増進を図り、自己管理能力を育成する。	①学校安全計画通りに遂行できている。年度途中で衛生委員会を設立し、教職員に対するアプローチの充実を図る。	①学校安全計画通りに遂行。衛生委員も設立し教職員に対するアプローチの充実を図る。	保健環境
②日常の防火・防災意識を高め、安全管理を徹底する。	②日常の防火・防災意識を高め、安全管理と安全避難の徹底を図る。	②前後期とも計画通りに実施した。後期の煙道訓練ではハンカチ等の事前準備の連絡が不徹底だった。	②前後期とも計画通りに実施した。後期の煙道訓練ではハンカチ等の事前準備の連絡が不徹底だった。AED講習会を年度途中ではあったが実施した。	保健環境
③校舎内外の環境整備と美化に努め施設設備・機器の保全に万全を期す。	③快適な学校環境をつくり、公共物愛護の精神の育成を図る。	③学校祭、夏休み前、前期末、見学会前の校内の清掃点検・校外通学路清掃を実施した。	③学校祭、夏休み前、前期末、見学会前の校内清掃点検・校外通学路清掃を実施できた。	保健環境
④生徒の心のケア等の健康管理については、担任は保健室、学年、教育相談センターが連携し、適宜、外部の専門機関との連絡を取りながら指導にあたる。	④生徒の心のケアには校内外の関係機関と連携して支援の充実を図る。またアセスのデータ分析と改善方法の提案、心理教育の試行の取組をする。	④心のケアに関しては、精神科医等に任せるのではなく、学校でなければできない「チーム支援」の仕組みづくりが大切である。アセス、とくに心理教育については、時間的・心理的余裕があればもっと良いものは作れる。	④心のケアに関しては効果的な仕組みを作る準備はできた。その実現には、充実した「チーム」、時間的・心理的余裕が必須である。アセスについては3回すべて充実した資料の提供ができた。	教育相談
7 研究・研修				
①教師は日々自己研鑽に努め、公開授業や研究授業、生徒による授業評価・アンケート等を活用して改善に努め、教師としての資質や力量を向上させる。	①教師は、公開授業や研究授業を積極的にを行い、アンケート調査等を謙虚に受け止めて生徒がわかる授業を心がけ、常に授業の工夫改善に努める。	①今年度から「授業アンケート」を専門業者に依頼した。アンケートの分析結果により問題点が明確となった。今後資料を活用し、授業改善を図りたい。	①教科内で相互に授業参観を行うなど、授業力の全体的な底上げが必要である。	教務部
②校内研修体制を充実させる。また、外部の研修会への参加や先進校視察を奨励し、研修内容を報告する。	②校内研修の内容を充実させ教科・分掌・学年の自主的・自発的な研修を推進するとともに、教員の実践的な指導力の向上を目指し、主体的・意欲的な研修の推進に努める。	②外部研修会への参加を奨励。校内研修会で情報を共有した。また校内研修会では、発達障がい支援センター「おがる」に講師を依頼し研修した。	②校内研修を今後も充実させ、新学習指導要領に沿った授業づくりが急務。	教務部
8 広報活動・募集活動				
①日常の教育活動が生徒募集活動に直結しているとの認識をもち、生徒・保護者の満足度を高める教育活動展開する。	①SAGコースの増員を目指し、あらゆる機会・手段を有効活用し積極的な広報活動に努める。	①学校見学会の催し物等をSAGにターゲットを絞って企画。事前アンケートでもSAGコースについて知りたいというものが多かった。	①参加者アンケートを調査したところ、例年と変化なし。結果的には望んでいた効果が出なかったと判断せざるを得ない。	入選対策
②効果的な広報活動・募集活動を展開し応募倍率の維持・増加を目指す。	②生徒募集の実質的な成果を上げるため、中学校及び塾と一層の連携強化を図る。	②上級学校訪問や塾の保護者説明会依頼の件数が前年度よりも大幅に増加した。	②八雲、倶知安などの地域から、訪問依頼があった。受験者も続いており、積極的な広報のチャンス。	入選対策
③校HPを活用して生徒の活躍（学習・諸行事・部活動等）の様子をタイムリーに発信する。また、広報誌「ぷらたなす」、父母だより「ちょっといい話」、体文だより、学校案内「TRY!」等の発行を通じて本校の教育を外部へ発信する。	③HPを通して生徒の学習活動や学校生活、部活動等を広く伝え、本校の効果的な広報活動に繋げる。	③ブログ形式のものは定期的に発信できたが、HP全体の更新が遅れており、次年度の改善が必要である。	③HP全体の更新が遅れたものの、内容への精査を加えており、その点では評価に値するものである。	情報システム

9 その他			
観 点	取組の概要	外部評価(意見・要望・改善事項)	
①教職員は高い倫理意識を持ち、法規・法令・服務規程を遵守しなければならない。 ②教職員は互いに理解と信頼によって結ばれた協働体制の確立に努め、明るい職場環境づくりを心がける。 ③教職員は、学校経営への参画意識を持ち、意欲と活力に満ち、熱意と使命感を持って業務を遂行する。 ④各学年、教科、分掌、センターにおいては、具体的な数値目標を掲げ、目標達成に向けて教育活動を展開する。	①教職員、特に教員は専門職としての倫理意識を高め生徒指導に当てる必要がある。体罰の厳禁、心のケアの対応、金銭等の幅広い倫理感や服務規程についての研修が急務である。 ②組織の一員としての意識や協働体制の意義を再確認する研修と、創成高校の長期展望や創成でやる気を起こす「生き甲斐」を持たせる必要がある。 ③教職員が、学校経営の「参画意識」を高め、本校の長期的展望を持って、時流に応じた取り組みの方向性を具現化する必要がある。	①職員会議や朝の打合せ等で服務規程等に触れて啓蒙してきた。また、新聞等で報道されたときには、該当部分切り抜き、配布し倫理意識の向上を図ってきた。今後も組織的に対応していく必要がある。 ②教職員が、より一層コミュニケーションを取り、共通理解のもと生徒が本校で学んだ喜びをもてる学校づくりに全教職員が邁進することが急務である。 ③学校経営の「参画意識」を高めることは難しいが、少子化や入学者の定員割れ等が今後も予測されるため、本校の長期的展望やコース制の在り方等について検討が必要となっている。	教 頭 総務部 教 頭
10 本校の近隣3町内会と連絡協議会を実施し、町内会から生徒に関する率直な意見を聴取する。			
観 点	取組の概要	外部評価(意見・要望・改善事項)	
①生徒の通学状況及び下校の様子 ②自転車通学のマナーの様子 ③服装や身だしなみの様子	①毎年6月に実施し、平成29年度は通算して25回目となる。参加者は、町内会、父母の会役員、生徒会役員及び本校の教職員の約20数名で実施している。	①毎年実施しており、三町内会の会合では高い評価を受けている。今後も継続する必要がある。 ②自転車の通学マナーや地下鉄・バスの乗車マナーについては、その都度生徒に伝えているが、更に継続的・効果的に実施する必要がある。	
11 保護者懇談会(7月下旬から8月上旬)を実施し、学校・家庭との連携を一層図りながら学習指導・生徒指導の充実を図る。			
①保護者と担任との意見交流 ②家庭及び学校での生活の在り方 ③家庭と学校との情報の交換及び強化等	①夏季休業期間に全校生徒を対象にして、2者懇談及び3者懇談(生徒・保護者・担任)を行っている。 ②進路相談や生活相談など広範囲に渡り、生徒理解を進めている。	①2・3者懇談会を定期的に実施しているが、担任の部活顧問や行事等の業務関係等で十分に時間が取れない場合があるが、それでもそれぞれ工夫して実施している。今後は時期や学校行事・授業時間等を検討する必要がある。 ②生徒本人との面談も重要であるが、保護者との懇談や家庭訪問等を実施して保護者との懇談をより多く取らなければならない家庭もある。	
12 保護者授業参観日(10月下旬)を実施し、生徒の実態や授業の様子・部活動の指導の在り方などを見学するなどして、本校へのよりよい理解を得る。			
①授業や部活動等の参観 ②学校教育への関心度の契機	①平常の授業及び部活動の様子など参観対象である。 ②参観者からは、生徒の様子や教員の教育活動など率直な感想や意見が寄せられている。	①例年保護者の参加が低いのが、参加した保護者の感想・評価は高い。授業参観に多くの保護者が参加できるような企画・計画が必要である。 ②平成30年度入学生からは「大学入学共通テスト(仮称)」やテスト内容で「四技能評価」が求められることから、授業参観だけでなく、中学校・塾等外部にも示す必要があることから、学校内部の取組内容等の検討が急務である。	
13 「よりよい授業」をするために、生徒による授業評価アンケートを全教員・全科目を対象として実施し、より効果的な授業改善を図る。			
〈生徒の学習への取組〉 ①授業内容の理解、約束事の遵守 ②授業への集中、教材の準備 ③課題や小テストなどの提出等 〈教員の授業改善〉 ①教材の研究や教材の工夫 ②板書や話し方、説明の工夫 ③興味や関心、質問の工夫等	①アンケートは、年間に1回(9月下旬)実施し、生徒が受けている授業を対象とする。授業担当者に対する評価、授業を受けている生徒の自己評価、授業に対する興味・関心など生徒に評価させている。 ②生徒に「授業の良い点や改善して欲しい点」などを率直に生徒に評価させる。結果については、内容を要約して保護者にも公表し、教員側の授業改善に向けた授業評価として実施する。	①今回は、業者の「授業評価(代々木ゼミ)」を活用したが、年1回の実施や教員への概要などが周知できていないことから、本来の「授業評価」として実施する必要がある。 ②「生徒の評価や記述内容」について検討し、今後は、創成高校の教員により「より適切な授業評価」となる方法を検討する必要がある。	
14 保護者及び地域社会に開かれた広報活動を推進し、本校に対する理解を促進する。			
①適宜、適切な情報の提供 ②学校理解の促進 ③学校の門戸開放 ④学校及び家庭等の地域の教育力の向上等	①札幌創成高等学校ホームページの更新を適宜・適切に行い常に新しい情報により、本校の教育活動への理解と協力を求め、情報宣伝活動に努めている。 ②サロンコンサート・図書館開放などにより、保護者・地域社会へ積極的な学校公開に努めている。	①ホームページやクラッシー等を活用して、常に新しい情報を適宜・適切に実施する必要がある。 ②サロンコンサート・図書館開放等を積極的に実施し、学校開放を拡大する必要がある。	